

平成31年3月8日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 明るい未来を創る会
代 表 者 合 川 哲 夫



会派の（ 調査研究 ・ 研修 ） 報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成31年2月13日（水）～ 平成31年2月14日（木） 1泊2日
2 調査研究または 研修の場所	①13日－京都市立 京都御池中学校 ②14日－千代田区立 麴町中学校
3 調査研究事項 または研修名	①京都市立京都御池中学校 「複合施設のPFIでの整備について」 ②千代田区立麴町中学校 「教育改革に伴う学校運営について」
4 参加者氏名 （5名）	合川哲夫、清水 晃、奥秋利郎、中村のりひと、村木英幸
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



京都市立京都御池中学校複合施設のPFIでの整備について

2月13日視察

所在地 京都市中京区馬場通御池上る虎石町45-3

事業主体 京都市教育委員会教育環境整備室

PFI事業者 アクティブコミュニティ御池株式会社

◆概要及び沿革

京都中心部御池通りに面し、東に約200メートル行くと市役所がある。

地域には3つの小・中学校があり、昭和33年頃をピークに子供の数が減少し始め、平成13年に、第14学区と5小中学校PTAから、3中学校の統合要望書が出された。

平成14年3月までに、滋野中と柳池中の2校を統合し、御池中として同年4月より先行スタートした。

翌年の15年4月には城巽中も統合し、御池中学校として平成18年3月まで学校運営をしてきた。

このような経緯の間、地元と協働とした事業を実施、「地元とのパートナーシップ」を目標に「新中学校設立推進委員会」を設立し、PTAやその他の委員会が中心となり、新しい中学校のあり方や、新しい校舎施設について話し合いがおこなわれた。

こうした中で、施設に関するコンセプトが地元から、次のように出された。

- ①人づくり、まちづくり拠点施設
- ②都心部活性化、御池シンボルロードのコンセプトに寄与する建物
- ③将来の人口増や少人数教育に対応した施設であること → PFI実施方針に反映された。
- ④体験や交流等を通じた幅広い学習機会

以上、地元からの提案を受け複合施設化の検討に入った。

- ・御池中学校 ・乳幼児保育所 ・老人デイケアサービスセンター ・乳幼児保育所
- ・オフィススペース（現在は教室に転用） ・賑わい施設 ・拠点備蓄庫
- ・自治会消防分団施設
- ・観光トイレの複合施設として整備していくことになった。

京都市ではPFI導入基本指針として、導入の効果等の検証、可能性調査を実施し、財政支出の削減化等のPFI手法の導入の効果など、民間ノウハウを最大限活用し、設計から維持管理まで、一括発注することによる効率的な事業実施が可能となった。

その他の効果としては、安心して効率的な複合施設の維持管理業務の実施（24時間常駐、各種定期維持管理業務）が可能になり、且つPFI手法等に関するノウハウの蓄積などがあげられる。

◆感想

京都市内でも有数な目抜き通り「御池通り」賑わいがやや後退したと思われるこの通りに、賑わいを再び取り戻せるような施設としたい思いもあり、商業スペースを1階の御池通りに面して配置され、又、観光トイレの設置、観光客の多い京都ならではの発想がやはりシンボルロードに面して配置されている。

PFI事業により、小中一貫校がハード面で整備され児童生徒の社会的福祉的な異年齢交流も実施体験でき、施設の特徴を生かした教育が可能となった。

何よりPFI方式の事業により、従来方式の整備事業費では90億1千万円のところPFI導入で26億9千万円、実に30%近い削減ができたことは、知恵と工夫のあらわれではないかと思う。



御池中学校正門前にて（右側観光トイレ）

教育改革に伴う学校運営について

2月14日視察

◆視察場所 東京都千代田区立麹町中学校

都内の優秀な中学校の中でも、最も飛びぬけているのがこの麹町中学校である。この日も、工藤校長の講演を聞きに、北は北海道、南は九州から集まり、ひな壇形式のホール（公立中学校にはない）には50～60人の教員の方々が視察に訪れていて、真剣に聴講していた。我々もその仲間となった。

◆教育目標 人間尊重と相互信頼の上に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者の育成を目指し、次の目標を掲げる

- ※自律・・・自律的に学習し、生活する
 - ※貢献・・・広い視野に立って考え、社会に貢献する
 - ※創造・・・豊かな発想をもち、創意工夫する
- これらの上で、『【校訓】は進取の気性』である。

こうした崇高な教育目標と校訓は、

目指す生徒像は、国際人として考え行動できる力を育成する。

目指す教師像は、(人づくりは人づくりから)

経験を通して身に着けた能力を価値づけることのできるスキルを身に付ける。

このように当該中学校の教育目標と、目指す生徒像及び教師像は伝統的に、しっかりと受け継がれ、生徒たちはその中で自主的な学習生活で、学びを実践している。

その上に工藤勇一校長が着任したことにより、さらに学校経営が大きく変化してきた。

◆工藤校長先生の取組

①定期テスト、宿題の廃止

②学級担任の廃止で全員担任制

①は教員間で、半年かけて話し合いで定期考査を廃止し、単元テストと実力テストで生徒自身は学習内容の定着度を総合的に把握できるものとしている。

②は固定担任制から、学年の全教員が担任となり、生徒一人ひとりを得意な分野や職歴が異なる複数の教員の目で把握し、教員間の連携を強化することで、若手教員がベテラン教員から生徒へのかかわり方を学ぶことで指導力の向上につなげるとした。

運動会の全員参加の企画から運営、大会の進行など、教員は一切手を出さず生徒自らプロデュースし成功を収めている。実践した例を述べて戴いた。

◆感想

こうした取組は工藤校長の指導力もさることながら、教員の理解と努力、PTAの積極的な参加、生徒自身の能力や理解力、地域の人々のレベルの高さ等々が合致した成果ではないかと思う。本市の教育理念「人が育ち、人が輝く、あきる野の教育」を目標に教職員の熱心な指導のもとに、生徒たちの自主的な学習は勿論、学校生活、社会活動等に積極的に取り組んでいる状況はよく理解できるが、麴町中学校の革命的な取組を見聞き感じたことは、例えば、一例だが運動会の真の自主的な取り組み等、生徒自身の自主性を積極的に尊重するやり方など、取り入れてもよいのではないかと、研究してみる必要もあると感じた。



受講風景